

認定看護師紹介 / 新生児集中ケア認定看護師
蠣崎 早奈恵 (かきざき さなえ)

新生児集中ケア認定看護師は「ハイリスク新生児の病態変化を予測した重篤化の予防」「生理学的安定と発育促進のためのケア」「親子関係形成のための支援」の3本柱を中心に急性期かつ重篤な状態にある新生児の「生きる力」をご家族とともにサポートさせていただいています。全国では平成30年12月現在416名、そのうち宮城県には10名、当病院には3名在籍し、スタッフと共に日々の看護を提供しています。

私が所属する新生児集中治療室(NICU)には、早産や疾患をもった新生児が入院しています。お生まれになった新生児の命を支えることは当たり前で、家族の一員として、その子らしい人生をスタートできるように、医師や看護

師、理学療法士、心理士、保育士、社会福祉士など他職種のチームで支援しています。新生児期はたくさんの事を吸収する大切な時期と言われています。そのため、心地よく過ごせる環境を整えたり、オムツ交換や体重測定などひとつひとつのケアを修正週数や個性に合わせて方法でスタッフとともに実践しています。また、発達を促進するケアを理学療法士や保育士とともに考えています。その中で私たち認定看護師の役割は、新生児の特徴や反応、ご家族の希望を踏まえ、看護の視点でどのようにケアを導入していくかコーディネートすることです。新生児のこころを受け止め、ご家族と想いを共有しながら、家族もサポートチームの一員としてケアに自然に

参加するような愛情いっぱいのNICUを目指しています。

私は今年で新生児集中ケア認定看護師として7年目を迎えます。新生児の成長をご家族と共に喜んだり、時には悔しい思いをしたこともありましたが、様々な出会いの中でたくさんの学びをいただき、スタッフに支えられてきました。これからもひとりひとりの新生児とご家族との出会いを大切に、実践を積んでいきたいと思っています。



People

お知らせ

● 東北大学病院難病医療連携センター

県内唯一の特定機能病院である東北大学病院が平成30年4月1日に「難病診療連携拠点病院」に指定されました。宮城県の委託業務事業として指定難病331全疾患を対象に、難病診療連携コーディネーターが3人配置され、難病患者及びその家族並びに支援関係者に対する相談窓口として、医療相談、入院調整、研修会開催、早期診断支援等を行っています。在宅難病患者が住み慣れた地域で安心・安定した療養が続けられる事をモットーに支援しています。

更に、地域において難病医療の中心となる医療機関と、より専門的な

機能を持つ施設等をつなぐ難病医療支援ネットワーク体制整備の支援をしています。

また、医療従事者等を対象に、難病患者の療養環境の質的向上を目的とした研修会を年4回開催しております。そちらの情報は随時、センターのホームページに掲載しておりますので、是非ご覧ください。

【電話相談】
月～金(午後1時～5時まで)
【面接相談】
事前に予約をお願いします。
TEL 022-717-7992

● 新患に関する変更のご案内

腎・高血圧・内分泌科は平成30年11月より完全予約制になりました。

新患日：月～金(祝祭日・年末年始を除く)
連絡先：022-717-7778
(腎・高血圧・内分泌科外来)

※完全予約制の診療科は、必ず事前に地域医療連携センターへ予約のお申込みをお願いいたします。

高次脳機能障害科は平成30年12月より新患日が変更になりました。

新患日：月・水・金
(祝祭日・年末年始を除く)
連絡先：022-717-7751
(高次脳機能障害科外来)

Information

編集後記

今号で紹介した、つながる健康講座はこれまで開催していた市民公開講座を刷新したイベントです。平成20年9月13日に第1回市民公開講座が開催され、第18回までたくさんの方にご参加いただきありがとうございました。更に、多方面からご協力、ご支援をいただき深く感謝いたします。今後は宮城県内各地に向向いて最新の医療を紹介する「つながる健康講座」をよろしくお願いたします。(地域医療連携係 鈴木)

編集／発行

東北大学病院 地域医療連携センター
TEL：022-717-7131 FAX：022-717-7132
Eメール：ijik002-thk@umin.ac.jp
ご意見・ご要望は地域医療連携センターまでお問合せください。



イベント情報

つながる健康講座 in くりはらを開催しました

11月25日(日)、栗原市若柳総合文化センター(ドリーム・パル)大ホールにおいて、つながる健康講座 in くりはらを開催しました。会場には300名を超える栗原市民の皆さまにご来場いただき、ほぼ満席となりました。

当院はこれまで、年2回、全18回にわたって仙台市内で市民公開講座を開催し、のべ1万人を超える市民の皆さまにご参加いただきました。一通りの診療科を紹介し終えたことなどから、今回より対象を宮城県内に広げ、最先端の医療の情報をより広く伝える機会として開催していくこととしました。また、本講座の開催により、大学病院と地域の皆さまとのつながりをより一層深めるとともに、地域全体の健康につながって欲しいという願いを込め、名称を「つながる健康講座」としました。

記念すべき第1回目は、「心臓病の

今とこれから」と題し、当院循環器内科 科長 下川宏明教授、高橋潤講師、中野誠助教が、不整脈や心不全など、心臓病の症状や予防、当院での最先端の治療などについて講演しました。さらに、栗原市病院事業管理者の平本哲也先生を座長に迎え、それぞれの役割や円滑な医療連携について議論しました。来場者はメモを取りなが

ら熱心に聞き入っていました。アンケート結果では満足度が高く、仙台市外での開催について多くの感謝の声をいただきました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。(広報室)



with

東北大学病院
地域医療連携センター通信
[With/ウィズ]

vol.47

2019年1月28日発行

Event

新診療科長挨拶 / 消化器内科 科長
正宗 淳（まさむね あつし）

平成29年10月1日付で、消化器内科科長を拝命した正宗淳と申します。当科が扱う疾患はCommon diseaseから希少疾患、難治性疾患まで、非常に多岐にわたります。例えば、私が専門とする膵臓がんは5年相対生存率が1割にも満たず、もつとも予後の悪い固形がんとして国をあげての対策が求められています。「食」をつかさどる臓器に起こる消化器病は、「食べられなくなる」ことに直結し、QOLの著しい低下を引き起こします。わが国が直面する超高齢化社会では、内視鏡治療など、より低侵襲な消化器病治療のニーズがさらに増加することが予想されています。

当科は、上部消化管、下部消化管、肝臓、膵臓・胆道の4つのグループにより診療を行っています。それぞれのグループが担当する臓器の疾患に

対応をするとともに、複数の臓器にまたがる疾患、症状に対しても、各グループが密に連携をとりながら診療を行っています。大学病院を受診することが数居の高い時代ではもはやありません。例えば便潜血陽性や肝機能異常といった場合でも丁寧に対応をさせていただいております。腹部超音波検査での主膵管拡張、新規発症や急激なコントロール悪化の糖尿病症例は膵臓がん診断の契機となることが少なくありません。あわせて、一般病院では対応困難な症例に対する“最後の砦”として、特に総合外科をはじめとする院内各診療科との密な連携のもと、専門的および高度な医療の提供に努めてまいります。

先生方におかれましては、ぜひ、さまざまな場面において当科をご利用いただければ幸いです。新患予約日以

外でもご連絡をいただければ柔軟に対応をさせていただいております。また、私どもが担当させていただく部分が完了しましたら、速やかに患者さんを先生方にお戻しさせていただき双方向性のつながりを大切にまいります。皆さま方のご指導、ご支援を心よりお願い申し上げます。



People

新診療科長挨拶 / 歯科麻酔疼痛管理科 科長
水田 健太郎（みずた けんたろう）

平成30年11月1日付で歯科麻酔疼痛管理科長を拝命いたしました水田健太郎と申します。私は平成11年に東北大学歯学部を卒業後、大学院進学、コロンビア大学留学を経て、平成19年より東北大学病院での臨床・研究業務に従事して参りました。

当科は、患者さんが安全で快適に歯科医療を受けることができるよう、歯科麻酔科学の知識と技術を用いてサポートする診療科です。主な業務は手術室での歯科口腔外科手術における全身麻酔管理であり、患者さんの周術期の安全・快適性の確保に尽力しております。また多くの研究成果をもとに、最新・最良の医療を提供することを心がけております。

当診療科の特筆すべき医療としましては、平成23年より運用を開始した「全身麻酔下歯科治療」が挙げられます。

ご存知のように歯科治療は非常に不快で辛いものです。不快な体験を契機として、歯科治療が怖くて歯科を受診できなくなる方が成人・小児を問わず多くいらっしゃいます。このような患者さんの口腔は、多数歯にわたる虫歯・歯周病への罹患で崩壊しており、チームアプローチによる適切な対応が不可欠です。そこで当診療科では、これらの方々に対して全身麻酔下での一括歯科治療を手術室で提供しております。歯科専門各が集結している大学病院の特徴を生かし、複数科（保存系診療科/補綴系診療科/歯科顎口腔外科/小児歯科）の歯科医師が同時に治療に参画し、高品質な歯科医療を提供しております。全顎にわたり虫歯がある方でも全身麻酔下に一括して治療を行いますので、通院での治療に比べて治療回数を大幅に減らすことが可能です。

Dental Department

この治療は、嘔吐反射の強い方や知的障害者の方に対しても提供しております。

患者さんの口腔の健康増進に麻酔を通してお役に立てるよう、全力で診療に取り組んで参ります。今後とも皆さまのご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



新診療科長挨拶 / 婦人科 科長
島田 宗昭（しまだ むねあき）

平成30年7月1日付で婦人科長を拝命いたしました島田宗昭です。私は、平成28年8月に鳥取大学より東北大学に着任し、婦人科腫瘍学を専門としております。

婦人科診療は婦人科腫瘍（良性、悪性）、生殖内分泌および女性医学（ヘルスケア）を包括しており、どの領域の専門性にも対応し、科学的に検証可能な、未来に繋がる最先端治療を提供できる診療体制を目指して参ります。

婦人科腫瘍に関しては、根治性を担保しつつ、低侵襲手術、機能温存手術にも積極的に取り組んでおります。がんゲノム医療中核拠点病院に認定された当院では、各々の患者さんに応じた個別化医療の実現を目指した診療・研究の推進に積極的に努めています。再発癌などの難治症例や希少症例に

対しては積極的に臨床試験や医師主導治験に参加し新たな治療の検証にも努めております。さらに、緩和病棟を有する大学病院としての特性を活かしつつ、地域の医療機関との連携を拡充して、患者さんが最後まで安心できるような緩和医療にも積極的に取り組んでいます。

生殖内分泌の領域では高度生殖補助技術（体外受精、顕微授精など）に加え、不妊症例における鏡視下手術（腹腔鏡下手術、子宮鏡下手術）や、卵管鏡下卵管形成術などの高度医療に取り組んでいます。思春期月経異常、性分化異常、性同一性障害に対しては他科と連携しながら、また、子宮奇形、造腔術など一般病院では対応が難しい症例に対しての治療も行っております。

婦人科診療に関しては各診療科、看

護部をはじめとする全ての部門の方々にご協力御支援を賜り成り立っております。最先端の医療を目指しつつ、目の前の患者さん一人一人のためになる医療を目指して参りたいと考えております。皆さま方の御指導、御支援を心よりお願い申し上げます。



People

イベント情報
平成30年度 地域連携オープンカンファレンスを開催しました

平成30年度東北大学病院地域連携オープンカンファレンスを「医療と介護のより良い連携を目指して」をテーマに11月27日18時より良陵会館にて開催しました。

オープンカンファレンスは昨年度から開始し今回で3回目となります。この会は本院の後方支援担当者、地域の訪問看護ステーション等、後方支援に関わる担当者が直接交流することで顔の見える連携を推進し、円滑な転院・退院調整に繋げることを目的として開催しています。今回は院外より訪問看護師、ケアマネジャー、相談員、行政職員の方50名、院内より医師、看護師、ソーシャルワーカー、事務員29名が参加しました。腎・高血圧・内分泌科 宮崎真理子特命教授より「腎疾患対策のこれからの10年を見据え

て」について講義をおこない、腎臓病患者の地域における医療提供体制の課題やこれから検討していかなければいけないことを共有することができ、出席者も大変興味を持って聞いていました。またグループワークでは院内外の参加者混合で「医療と介護連携で工夫していること」をテーマに活発なディスカッションをおこないました。病院、介護、訪問看護、行政などの様々な分野の方から意見を聞くことができ情報交換が回数を重ねる毎に充実してきています。

当院で、このような会を開催することで他施設間の交流の機会となっており地域全体の「顔の見える連携づくり」にも貢献しています。今後も、参加された方の有意義な時間となりますように院内外のニーズを取り入れな

がら企画して継続していきたいと思っております。



Event